

努力が実を結び、新しい扉が開かれた!

これまでの道のりがあったからこそ、掴めた未来。次のステージへ、自信を持って踏み出そう。

3年間の成長



普通科総合コース
31HR 大石 翔生
〔城西大学経営学部に進学〕
〔富田町立吉田中出身〕

私は藤枝明誠で過ごした3年間で多くのことを学びました。新たな経験でも沢山の出会い、支えられながら成長することができました。

私が所属していた陸上部長距離ブロックでは、「全国高校駅伝出場」という目標を達成するために、日々努力してきました。私たちが3年生で迎えた県高校駅伝では、先頭に立つ場面もありましたが惜しくも2位となり、全国高校駅伝への出場権を獲得することはできませんでした。気持ちを切り替えて、覚悟を決めて挑んだ東海高校駅伝では、藤枝

明誠のレースを展開することができずに8位に終わりましたが、またも全国大会の出場は叶いませんでした。しかし、練習を重ねていくにつれて全員が力がついていったことを実感し、チームとして取り組んできたことが正しかったのだと思うことができました。3年間で、「マックスポジティブを意識し、苦しい練習でも全員で声を掛け合いながら乗り越えてきました。その中で、キャプテンを務めたことで、より多くのことを学び成長することができました。時には怪我をしている部員に厳しい言葉をかける心苦しさを感じ、キャプテンとしての無力さを痛感しました。それでも苦しい時には仲間や先生方に支えられ、1年間務めることができました。この1年間、私についてきてくれた部員には感謝しています。

藤枝明誠高校での3年間はあっという間でしたが、とても貴重でかけがえのない時間を過ごすことができました。3年間、私を支え続けてくれた両親、先生方、仲間には感謝しかありません。次の進路である城西大学経営学部でも明誠で学んだことを活かし、充実した大学生活にしたいと思っています。



明誠での成長



普通科総合コース
33HR 田中 綸太郎
〔常葉大学健康プロフェッショナル学部に進学〕
〔藤枝市立立井中出身〕

明誠に入学して3年が経ち、高校生活を振り返ると色々な経験をすることができたと感じています。

私はサッカー部に所属し多くの仲間と高みを目指し切磋琢磨してきました。結果的にはチームとしてベスト8で終わり、個人としては上のカテゴリーでのプレーは叶いませんでした。しかし、その裏で辛い経験から得たことや、仲間と一緒に過ごした時間は他に代えられないものがあることを学びました。私は高校3年生でカテゴリーのキャ

プテンを務め、1年間リーダーシップをもって頑張ってきました。どうすればチームをまとめることができるのか、良いチームとしてプレーできるのか、とても悩んだ時期がありました。試合に勝てない日々が続いたり、自分が失敗してしまったりした時には「自分にはキャプテンに向いていないのではないか」と落ち込みました。それでも何とか良い方向にもっていきたいと思いつつ、この気持ちを一人で抱え込む日が続き、もっとみんなに頼ろう」と思ったのです。そこから自分の気持ちが楽になり、チームにも一体感が生

まれたように感じました。キャプテンとしてはまだまだでしたが、苦しい時期、思い悩んだりした経験は大きな財産だと思います。最後の1年は苦しいことが多かったですが、振り返ってみるとその分だけ達成感や毎日の充実感があり、とても楽しかったと思います。この3年間で多くの仲間と関わり、助けてもらいながら成長することができました。この経験を活かし、さらに成長していきたいです。



学びの3年間



普通科リベラルHSコース
35HR 齊藤 里宥
〔静岡県立大学薬学部に進学〕
〔浜松市立立井中出身〕

私は藤枝明誠高校で多くのことを学びました。この約2年半、私は寮生活を送りました。入寮して最初の1週間は親元から離れること、掃除や洗濯などを一人ですべて行わなければならないことなど不安がありました。また、全く知らない同級生や先輩方と共同生活をすることに、正直なところ怖さを感じていました。しかし、優しい先輩方から家事や寮内での過ごし方など色々なことを教わり、段々と慣れることができました。そして、最終的には

自分の身の回りのことを全てこなせるようになりました。私はサッカー部に所属していました。日々のトレーニングは身体的にも精神的にも厳しく、チームの目標を達成するために仲間と声を掛け合い、全力を尽くしてきました。全国制覇という目標は達成することができず、切った後の達成感はいままで経験したことがないものになりました。

私は6月まで部活動に休み7月から本格的に受験勉強を始めました。夏休みの序盤で挑んだ模試では問題に全く歯が立たなかったため、夏休み中は毎日10時間以上学習をおこないました。特に推薦入試でも一般入試でも重要な物理と化学に力を入れました。森先生

や稲見先生が過去問をくださり、面接では鈴木友太先生や佐藤先生が、受け答えもまともにできない状態から落ち着いて受け答えができるレベルにまで練習をしてくださりました。無事合格し応援してくれた先生方に結果で答えることができたのでとても嬉しかったです。



3年間の成長



普通科総合コース
32HR 楠本 雷
〔愛媛大学健康プロフェッショナル学部に進学〕
〔浜松市立立井北中部出身〕

私は明誠で過ごした3年間で多くのことを学び、成長できたと感じています。新しい仲間と出会い、沢山の人が支えられて充実した日々を過ごすことができました。

私が所属していたサッカー部は全国でベスト4という目標を掲げサッカーの技術だけでなく人間性も高め、誰からも応援されるチームになれるよう意識して活動してきました。私が3年生として活動した夏・冬の大会はどちらもベスト8という悔しい結果で終わりましたが、目標を達成することはできませんでした。しかし、取

り組んできたことに後悔はしていません。初期の頃はチームとしての完成度は高くありませんでしたが、一人ひとりが自分の立場を理解し、責任をもつようになつてからピッチの内外で変化がみられるようになり、そしてリーグ戦の最後の2試合を勝利という形で終えることができました。また、チームだけでなく個人としても成長できたと感じています。私自身、初めから試合に関わることはできませんでしたが、3年間でサッカーをやりたいと思うこともありました。しかし、最後まで諦めず、どうしたら試合に出ることができるのか、何が足りないのかを考え、それを行動に移すことで試合に出場する機会が増えました。

この経験から諦めず、最後まで続けることが大切だと感じています。明誠での高校生活は本当にのどかかりました。さらにそれぞれの試合での明誠スタンドの応援が力となり、多くの方に支えられていることも実感しました。



人に信頼される人間になれ



普通科リベラルHSコース
34HR 熊切 一護
〔立命館大学経済学部に進学〕
〔藤枝市立立井中出身〕

「人に信頼される人間になれる」とは、私が所属した陸上競技部の顧問である清先生が、日々私たちに言っていた言葉です。それは、当たり前のごとを当たり前でできる人間のことです。掃除や挨拶をする、提出物をきちんとやる、言われたことをすくすく実行する、などのことが挙げられます。私は3年間の言葉を胸に刻み生活して

てきました。掃除の時間は決して手を抜かず、挨拶は相手の目を見て大きな声で、提出物を作成する際には先生の見やすい内容になることを心がけました。また陸上部の目標である、

一日3パックの納豆を食べる取り組みも徹底しました。それにより、何事にも真面目に取り組む習慣が身につきました。その真面目、特に部活動で存分に発揮されたと思います。例えば試合の翌日であっても、いつも通りの時間に起きて朝練習に行く。1年生の時にもあったアドバイスを3年生になっても思い出して実行する。毎日提出する陸上シューズを自分なりにアレンジし、より意味のあるものにする。このように、真面目に丁寧に取り組んだ一つひとつが自分の成長につながっていると感じています。

「信頼される人間になるために努力したことで何かを成し遂げることができたのか? 後悔の無いように過ごすことができたのか? もしこのように聞かれたら私の答えはNOです。しかし誰に何を言われようと私はこの3年間に、かく真剣に物事に取り組んできました。その上で毎日楽しい生活を送ることができたと自負しています。この経験は私の今後の人生において必ず糧になると思います。どんな時も支えてくれた両親や先生、一緒にいるだけで時間を忘れてしまう仲間たちのおかげで有意義な3年間を過ごすことができました。みんなへの感謝と冒頭の言葉を胸に、大学でも充実した生活を送ります。



挑戦の3年間



英数科国際教養コース
36HR 加藤 芽依
〔明治学院大学文学部に進学〕
〔富田町立立井中出身〕

私は明誠で過ごした3年間で多くの経験をし成長できたと感じています。私は中学生の時、また英語や海外について興味を持っていました。しかし、自分は今までに経験したことのないことを沢山やってみようと思いついて、国際教養コースを選びました。入学当初はクラスメートの英語のレベルの高さに驚き、授業についていくのに必死でした。それでも私が国際教養コースにいたいと思っただけで、1年生の春休みの経験です。私は自分の英語力を試してみたいという思いから、このホームステイを決めまし

た。この経験から、より英語力と異文化を理解する力を向上させたいと思うようになりました。私は吹奏楽部で8月まで活動していたため、第一志望を決めたのは高3の9月でしたが、この時に志望校の決め手となったのもこの留学経験でした。そのため留学に強く英語を一つのツールとしてさらに学ぶことができることが志望校決定のための条件となりました。志望校を決め、実際に受験した自己推薦入試では英語の小論文と日本語・英語両方の面接がありました。受験校の決定が遅くなってしまったことで対策できる時間が少なく、毎日が不安でした。しかし、クラスの友人や先生方がいつも励ましてくれました。そのおかげで最後までやり遂げることができました。また、この粘り強さは部活動のおかげでもあ

ります。吹奏楽部の活動は楽しいことよりも辛いことの方が多かったと思います。それでも活動を続けたのは、演奏をするという、そして部員たちが大好きだったからです。

これらの経験を通して挑戦することや最後まで諦めないことの大切さを感じ、部活動では継続力や責任感を養うことができました。明誠に入學して、みんなと同じ時間を過ごすことができて本当に良かったです。これからも様々なことに挑戦し続けます。



友達



英数科プログレシオンス
37 HR 西松 優之介
(静岡大学教育学部附属藤枝中出身
静岡大学工学部理工学系に進学)

入学当時は長いと感じて
いた3年間も、もうすぐ終
りを迎えます。そこには大
学受験が終わったという喜
びもありますが、同時に友
達と離れる寂しさもあります。
しかし、別れがあれば出会い
もあると考え、前を向き新
たな一歩を踏み出さなくては
けません。

思っていました。それでも学
校に向かったのは友達と話
したかったからです。会っ
て話したい、一緒にいるだけ
楽しい、そう思わせてくれた
友達に会えたことに感謝し
ています。そんな友達やクラ
スメートがいたからこそ、イ
ベントも楽しいものになり
ました。

文化祭では2年次にア
トラクション、3年次にワッ
ルの販売を行いました。互
いに意見を出し合ったり、自
らでできることを一杯やっ
たりしたおかげで見事成功
することができました。みん
なで一つのことを成し遂げ
る達成感と、クラスの絆が深
まるのを感じました。体育大
会や球技大会は、勝った嬉
しさを負けた悔しさよりも
みんなで戦った幸福感のほ
ろが強く、いつも笑顔の絶え
ないクラスで良かったと思
っています。

行事などを通して絆を深
め、同じ方向を向いてきた仲
間たちとあと数日でお別
れです。次はそれぞれが自
分の将来に向かって自分の
道を進んでいきます。もしか
したら、途中でお互いの道が
交わることもあるかもしれ
ません。その時はこの3年間
を思い出して笑い合えたら
嬉しいですね。楽しい高校生
活をありがとうございました。

中高と射撃を続けて、的を撃
つ技術の他に身につけた能力
は一生ものになりました。
私にとって高校生活の3年
間はこれまでになく濃密なも
のとなりました。この間様々
な人と出会い、様々な場所を
訪れ、様々なことを経験して、
人間として一段階レベルア
ップできたのではないかと感じ
ています。このように私を成
長させてくれた高校での経
験、仲間や先生方、その他す
べての人のことを想いながら
これからの生活でもさらに進
化していきたいと思っています。



充実した3年間



英数科プログレシオンス
38 HR 山岸 未采
(藤枝市立青島中出身
静岡県立大学看護学部に進学)

私の高校生活は様々な経験
を通して大きく成長するこ
とができたと思います。特に力
を注いだのは陸上部のマネー
ジャー活動と、学習への取り組
みです。

私を鼓舞してくれました。
その熱心なご指導のおかげで
第一志望校に合格することが
でき、とても感謝しています。
毎日お弁当を作り、どんな時
も味方でいてくれた両親日々
熱心に指導してくださった先
生方、そして互いに高め合い
ながら笑顔で共有できた友人
たちなど、多くの人の支えによ
って私の高校生活はより充実
したものにりました。今までの
経験を糧に大学でも新たなこ
とに挑戦し続け、成長を重ねて
いきます。

私を鼓舞してくれました。
その熱心なご指導のおかげで
第一志望校に合格することが
でき、とても感謝しています。
毎日お弁当を作り、どんな時
も味方でいてくれた両親日々
熱心に指導してくださった先
生方、そして互いに高め合い
ながら笑顔で共有できた友人
たちなど、多くの人の支えによ
って私の高校生活はより充実
したものにりました。今までの
経験を糧に大学でも新たなこ
とに挑戦し続け、成長を重ねて
いきます。

私は藤枝明誠で過ごした6年
間、特にテニス部での活動を通
じて大きく成長できたと感じ
ています。明誠中学入学と同時
に硬式テニスを始め、中学時代
日々練習に励み、試合でも手
応えを感じていました。しかし、
高校でのテニスは想像以上にレ
ベルが高く、自分のペースで試
合も進められないなど、高学年
ゆえの厳しさを痛感しました。高
校1年生の春の大会は、私に
とって最初の大きな壁でした。
特に、ダブルスでは自分のア
レがペアの動きや試合展開に
直接影響するため、2人で一つ
のプレーを作る難しさに

直面しました。そこで、連携の失
敗を単なるミスで終わらせるの
ではなく、次に活かすためにベ
アと改善点について納得のいく
まで話し合いました。そして、基
礎練習を積み重ねることも、
練習の合間にも戦術について意
見を交わし、お互いを補い合
うことができるよう信頼関係を深
めていきました。1人ではなく
2人で戦う競技だからこそ、お
互いを信じて任せることも大切
にし、強みを生かせるよう声掛
けを続けた結果、徐々に自分た
ちらしいプレーができるよう
になりました。これらの積み重ね
が形となり、高校生活最後の大
会ではダブルスとして県大会出
場を決めることができました。
決まった瞬間はこれまでの努力
が報われたと感じ、本当に嬉し
かったです。進んだ県大会では、
強豪選手の高い技術に圧倒され



万事血肉となる



英数科プログレシオンス
39 HR 中村 悠人
(藤枝明誠中出身
東北大学理学部に進学)

3年前のことです。私が藤
枝明誠高校に入学すると、同
じ校舎とはいえ中学校とは全
く違った日常が待っており、
この3年間で様々なことを経
験しました。

2年生の冬には修学旅行で
オーストラリアのプリズベン
を訪れました。出発前まで不
安だった初めてのホームステ
イは、住めば都の如く、ホスト
ファミリーに恵まれて非常に
楽しい2週間を過ごすことが
できました。オーストラリア
のマクドナルドハンバーガー
は意外に大きくないなどなど
か、日本の夏よりオーストラ

中高と射撃を続けて、的を撃
つ技術の他に身につけた能力
は一生ものになりました。
私にとって高校生活の3年
間はこれまでになく濃密なも
のとなりました。この間様々
な人と出会い、様々な場所を
訪れ、様々なことを経験して、
人間として一段階レベルア
ップできたのではないかと感じ
ています。このように私を成
長させてくれた高校での経
験、仲間や先生方、その他す
べての人のことを想いながら
これからの生活でもさらに進
化していきたいと思っています。



令和7年度<大学合格速報> ・赤字は国公立大学

【国公立大】	東北大学	電気通信大学	新潟大学	静岡大学	名古屋大学	名古屋工業大学	高崎経済大学	都留文科大	静岡県立大	静岡文化芸術大	早稲田大	上智大	東京理科大	明治大	青山学院大	中央大	法政大	関西大	関西学院大	同志社大	立命館大	愛知大	愛知学院大	亜細亜大	大阪学院大	大阪産業大	大阪体育大	神奈川大	関西外国語大	神田外国語大	関東学院大	岐阜女子大	京都産業大	共立女子大	
近畿大	工学院大	神戸学院大	國學院大	駒澤大	産業能率大	静岡英和学院大	静岡産業大	静岡福祉大	静岡理工大	芝浦工業大	順天堂大	城西大	城西国際大	聖隷クリストファー大	専修大	拓殖大	多摩大	玉川大	中京大	中部大	帝京大	帝京平成大	東京経済大	東京国際大	東京電機大	東京農業大	東海大	東洋大	常葉大	獨協大	名古屋外国語大	名古屋学院大	名古屋経済大	名古屋商科大	南山大
日本大	日本経済大	日本赤十字豊田看護大	日本福祉大	藤田医科大	武蔵大	武蔵野大	名城大	明治学院大	明治薬科大	立命館アジア太平洋大	龍谷大	など																							

- 令和7年度 特別表彰者
- 【静岡県私立協会理事長表彰】
31 HR 筒井 結斗
(愛知県常滑市立鬼崎中出身)
 - 32 HR 高杉 悠真
(藤枝明誠中出身)
 - 33 HR 山本 哲平
(牧之原市立橋原中出身)
 - 34 HR 熊切 一護
(藤枝市立青島中出身)
 - 35 HR 齊藤 里有
(浜松西高等学校中出身)
 - 36 HR 澤崎 心
(藤枝市立高洲中出身)
 - 37 HR 小長谷 玲雄
(焼津市立和田中出身)
 - 38 HR 森下 陸翔
(島田市立六合中出身)
 - 39 HR 中村 悠人
(藤枝明誠中出身)
 - 310 HR 松尾 仁衣奈
(藤枝明誠中出身)
 - 【日本私立中学高等学校連合会
会長表彰】
39 HR 平野 広輝
(焼津市立大井川中出身)



《日程表》
 11月28日(金) 学校発↓成田空港
 11月29日(土)・8日(日)①(ホームステイ)
 ↓DFOSカイゲートにて必要品の買い出し
 ↓ホストファミリーと合流
 11月29日(土)・12月5日(金)②(ホームステイ)
 ↓シャフトンインターナショナルカレッジ
 ↓英語授業
 ↓アクティビティ5日間それぞれ体験
 12月6日(土)③(ホームステイ)
 ↓ホストファミリーの送迎でシャフトンC集合
 ↓ゴールドコースト
 ↓サーファーズパラダイス周辺別荘別荘研修
 12月7日(日)④(ホームステイ)
 ↓終日ホストファミリーと行動
 12月8日(月)⑤(ホームステイ)
 ↓シャフトンインターナショナルカレッジ
 ↓英語授業
 ↓卒業セレモニー&さよならパーティー
 12月9日(火)・10日(水)⑥(飛行機発)成田空港
 ↓成田空港発↓成田空港↓学校着

英数科 修学旅行

～オーストラリア ブリスベン13日間～

教科書には載っていない、
 生きた言葉と勇気に会いに。

異文化の中で得た自信



英数科プログレッシブコース
 27HR 武本 英緋
(焼津市立港中出身)

私たちは約2週間、オーストラリアのブリスベンでホームステイを含めた滞在を経験してきました。初めての海外、日本と全く異なる文化、不慣れた英語でのコミュニケーションなど、全ての要素が私を不安にさせました。一方で、心が躍るものもありました。

私はホームステイ先や授業など様々な場面において積極的に英語で話すことを目標にしていました。しかし、最初の頃は相手の話を上手く聞き取れず、"Yes""OK"しか口にできない、もどかしいコミュニケーションしか取れませんでした。生活の中で徐々に話せるようになり、楽しく会話ができるようになった時には今まで勉強を頑張った甲斐があったなと感じるようになりました。

また最も心に残ったのは、予定の最終日に飛行機が欠航し帰国できなくなりました。そこでまで努力をしてきた分ショックは大きかったのですが、宿泊がホームステイのみだったため、急遽ながらホテルに泊まることになったのは嬉しかったです。部屋からはブリスベンの街を一望することができ、これまでの苦労が報われた気持ちになりました。

慣れない土地で仲間とともに苦境も困難も楽しんだこの期間は、一生忘れることのできない大切な宝物です。この経験を糧に、残りの学校生活も高い志を持って全力で頑張ります。



《日程表》
 11月29日(土) 学校↓成田空港
 11月30日(日)①(ホームステイ)
 ↓ケアンズ国際空港着
 ↓ピーチ(エアフライト)で買い物
 ↓フレッシュウォーター駅より
 高原鉄道でキュランダ
 ↓キュランダで自由散策
 ↓レインフォレストステーションにて昼食
 ・アーミューダック
 ・ワイルドライフパーク
 ・アポリジナル文化体験
 ↓ケアンズ市内到着後、各家庭へ移動
 12月1日(月)②(ホームステイ)
 ↓語学研修・校外学習
 12月4日(木)③(ホームステイ)
 ↓ケアンズ港より全員でグリーン島訪問
 ↓昼食・体験など
 市内自主研修
 12月5日(金)④(ホームステイ)
 ↓ケアンズ空港
 ↓成田国際空港↓学校

普通科 修学旅行

～オーストラリア ケアンズ 7日間～

多文化の波に飛び込み、
 言葉を超えた感動を体験。

差異から生まれる学び



普通科リベラルHSコース
 24HR 中村 雛那
(藤枝市立青島中出身)

私は今回の修学旅行で日本とオーストラリア・ケアンズを比較し、言語や生活様式の違いについて学びました。言語では、相手を気遣う速回しな表現が多い日本語に対し、オーストラリアで使用される英語は直接的で、言葉の芯の強さが印象的でした。イギリス英語をベースにオーストラリアで独自に発展したオージーイングリッシュの親しみやすさからも文化の違いを感じました。

そして、ケアンズの街には自然や広場が多くみられ、キュランダ高原鉄道では熱帯雨林も見ることができました。多様な植物、川や滝に囲まれた幻想的な景色、自然を生かした取り組み、短時間で激しく降るスコールなど、日本との自然環境の違いを強く感じることができました。

例えば、街の中を歩くと信号が少なかったり、歩行者自身がよく道を確認して渡る習慣や、浸透しているラウンドアバウト(環状交差点)による交通制度からは、個人の意識の高さやうかがえました。家庭内では、食事の作法や水資源を大切にしていることが非常に印象深かったです。

この修学旅行で、文化の違いを恐れず互いを尊重し合うことにより、新たな発見や個人の意見にとらわれない姿勢が生まれるということを学びました。

この経験をこれからの日常生活にも活かしていきたいです。



サッカー部 修学旅行

～オランダ 9日間～

異国の地で想像を超えた『個』と『熱』に出会う旅。

- 《日程表》
- 12月10日(木) 学校出発→成田空港
 - 12月11日(金) イスタンプール空港到着
 - 12月12日(土) イスタンプール空港到着
 - 12月13日(日) オランダ・スキポール空港到着
 - 12月14日(月) 国際司法裁判所ICJ前で集合写真
 - 12月15日(火) 周辺散策
 - 12月16日(水) 親善試合
 - 12月17日(木) マルクトハルでショッピング
 - 12月18日(金) 羽田空港着→学校へ

オランダ修学旅行で学んだこと

普通科リベラルHSコース
23HR 小林 幸大
(横浜市立大井川中出身)

私たちサッカー部は12月10日から12月18日までの9日間で、オランダへ修学旅行に行きました。オランダの様々な街を観光したり、プロチームの試合を観戦したり、同世代の選手と親善試合をさせていただいたりなど充実した時間になりました。

特に印象に残っていることが2つあります。1つ目は日本代表である上田綺世選手らが所属するチームの指導者によるサッカークリニックです。体験したことのないトレーニングや考え方、見るべきところなどを直接丁寧に教えてもらいました。教わったことも表現しつつこれからのサッカーに繋げていきたいです。

2つ目は、同世代の選手との親善試合です。3つのグループに分かれて試合を行いました。相手には体が大きくフィジカルが強い選手や、足が速く厄介な選手などとても同世代とは思えない選手ばかりで、私のチームは負けてしまいました。相手からも学ぶものが多かった有意義な時間になりました。



国際司法裁判所 ICJ (平和宮 Vredespaleis) 前で集合写真

マルクトハルでショッピング!

Goedzo!

親善試合

高1寒稽古

2月9日から14日までの5日間行われた寒稽古では男子が柔道や剣道、女子が持久走に取り組みました。早朝から、まだ寒さが厳しい中行われた寒稽古でしたが、風や寒さ、疲れに負けず、最後までやり抜く力を養いました。



持久走



柔道



剣道

二十歳を祝う会

令和8年1月4日に小杉苑で行われました



内進16期 高校39期生 片山 光姫

私たち16期生の二十歳という節目に心温まる会を開催していただきありがとうございます。当日は懐かしい笑顔と歓声に包まれ瞬間に時間が過ぎていきました。学生時代、先生方にご迷惑をおかけした数々の思い出も、今では笑い合える大切な記憶です。時の流れと友情の大切さを改めて感じました。



現在、明誠高校1年生の妹と一緒に♡



二十歳の祝い明誠中16期生集合



みんな笑顔で♪

中学耐寒持久走

2月13日、中学行事として耐寒持久走が行われました。天候に恵まれ寒さが和らいだ暖かい日差しの中、生徒たちが自分のペースでそれぞれの限界に挑戦する姿が印象的でした。



意欲的な活動をする生徒たちを応援するため、ご協力をお願いします。ご寄付のお願い

藤枝明誠中学校高等学校では部活動への支援や教育施設・設備整備のための寄付金を募集しております。詳しくは学校ホームページまで。(寄付金額に応じて税制上の優遇措置を受けることができます。)

寄付募集要項

- 目的/教育環境の充実を図ることを目的とします
- 用途/施設・設備等の整備や部活動への支援のため
- 募集期間/令和8年3月31日まで
- 寄付方法/現金または振込でお願いします

■詳しくは学校ホームページをご覧ください
<https://www.fgmeisei.ed.jp/donation/>



第78回全国高等学校バスケットボール選手権大会 WINTER CUP 2025 全国大会

12月23日～29日東京体育館と京王アリーナTOKYOで「令和7年度第78回全国高等学校バスケットボール選手権大会」が開催されました。藤枝明誠は4年連続10回目の出場。夏のインターハイの悔しさを胸に挑んだ冬の大会でしたが2回戦73-86で土浦日本大に惜敗しました。

バスケット部 次こそは絶対!

普通科総合文系コース
21HR 高平 爽太
(長崎県長崎市立小ヶ倉中出身)

12月23日、25日の2試合にわたり、たくさんの応援がありとうございました。チーム全員で日本一を目標に大会へ臨みましたが、その目標には届かず、2回戦敗退という結果に終わりました。夏のインターハイで

の悔しい敗戦を冬のウィンターカップで取り返すという思いで日々の練習から3年生を中心に意識を変えて取り組んできましたが、試合では技術や戦術だけでなく、勝ちに対する気持ちの部分で相手の方が上回っていたと感じています。

個人としても、コートに立つ時間が限られ、自分の力を十分に発揮できなかったことに悔しさが残りました。この悔しさを決して無駄にせず、新チームではキャプテンとして責任と覚悟を持ってチームを引っ張っていきます。今年のチーム目標は「日本一」ではなく「全国制覇」です。これは、どんな大会や試合であっても絶対に勝つということです。新人戦から1戦1戦勝ち続け、インターハイ、ウィンターカップ、トップリーグともに優勝して全国制覇できるように、この1年間全力で取り組んでいきます。

これからもバスケットボール部への応援をよろしくお願いたします。



サッカー部 令和7年度静岡県高等学校新人体育大会サッカー競技

普通科リベラルHSコース
24HR 渡貫 暖
(静岡大学教育学部附属島田出身)

生かせず前半で交代となり、主将としてもチームを勢いづけることができませんでしたが、2回戦では早い時間帯に失点し、苦しい展開となりました。その後、同点に迫いつき、さらにチャンスの場面で私にパスが回ってきました。無我夢中でシュートを打つと、それが逆転ゴールとなり、勝利することができました。

三回戦も逆転で勝利し、準々決勝へと駒を進めました。準々決勝では藤枝東高校とのライバル対決、いわゆる「藤枝ダービー」になりました。今大会で一番いい試合をしました

私たちサッカー部は1月中旬からの新人戦に出場しました。新体制で初の公式戦となり、私はダブル主将の一人として大会に臨みました。初戦は勝利したものの、決定機を

が相手にボールを握られる時間が多く先制点を決められ、そのまま試合終了となり、ベスト8で大会を終えました。

今大会では明誠の特徴である超攻撃的なサッカーを展開できなかった点や、個人としては1得点という結果に終わったこともあり全体的に課題が多く出た大会でした。「全国ベスト4、国立でサッカー」を目標にチーム一丸となり、今まで支えてくださった方々に恩返しできるよう頑張ります。私自身がチームを支え、チームの危機の時には救える主将になれるよう精進していきます。



わったこともあり全体的に課題が多く出た大会でした。「全国ベスト4、国立でサッカー」を目標にチーム一丸となり、今まで支えてくださった方々に恩返しできるよう頑張ります。私自身がチームを支え、チームの危機の時には救える主将になれるよう精進していきます。

男子バレーボール部 令和7年度静岡県高等学校新人体育大会

新人戦を終えて



普通科リベラルHSコース
23HR 服部 志洋
(焼津市立豊田中出身)

私たちは1月17日、18日に行われた静岡県新人体育大会中部地区予選、31日に開催された県大会に出場しました。

予選では主力に体調不良者が続出し、十分な練習ができず、ベストパフォーマンスを発揮できずに終わってしまいました。最終的な結果は7位という納得のいく形で県大会出場は叶いませんでした。また、県大会では自分たちの持ち味を活かし切れず、初戦敗退とい

う悔しい結果になりました。この大会から個人の課題、チームの課題が多く見つかりました。個人としてはブロックの反応が遅いという点、クイックを打つコースの選択という点で課題を見つけました。チームではファーストレシーブの精度、サーブの狙いや効果率を上げていくことが今後の大きな課題です。勝つために一人ひとりがこの課題を理解し、普段の練習から高い意識を持って取り組み続ける必要があります。これらの課題を改善していきます。3ヶ月後のインターハイ予選では、しっかりとチーム力を発揮し、目標の県ベスト8を達成できるように、日々全力で取り組んでいきます。



陸上部 第74回東海高校駅伝競走大会

11月23日、男子第74回東海高校駅伝競走大会が三重県松阪市の三重高校を発着点とする7区間42・195キロのコースで行われました。藤枝明誠は2時間10分57秒の8位でフィニッシュしました。都大路全国大会出場は残念ながら叶いませんでした。

都大路への切符



私たちが陸上競技部は11月23日に、三重県で行われた東海高校駅伝に出場しました。今大会から各県の優勝校を除いた1チームが都大路の切符を手に入れることができます。私たちは一年間、都大路に出場するために練習してきました。また私個人も都大路に出場することに憧れをもって藤枝明誠に入学してきました。去年は夏から冬まで怪我ばかりしてチームに迷惑をかけていました。そのため今年こそはチームの力になりたいと思い練習してきました。迎えた当日、私は6区を走り切りました。同年代の長島が前のチームとの差をつめて襷を渡してくれたものの、まだ差は3分近くありました。そこで勝機は薄かったのですが、諦めるわけにはいかないと思い、予定していたレースプランを変え、スタートからかなり速いペースでいくことにしました。結果的にそのペースは続かなかつたものの、区間2位と好成績を残し、前のチームと差をつけることができました。

目標としていた都大路への出場は叶わず、とても悔しかったです。自分の中では貴重な経験となりました。応援ありがとうございました。

剣道部 基礎を積み重ね、試合で磨いた精神力



普通科リベラルHSコース
24HR 岡崎 右京
(焼津市立大富中出身)

私が部活で、これまで頑張ってきたことは、一つあります。1つ目は剣道の基礎を大切に、日々の稽古を継続してきたことです。素振りや基本打ちなどから常に集中し、地道な練習にも手を



切さを学びました。これからインターハイに向けて、高知遠征で得た課題と学びを生かし、より高い意識で稽古に取り組んでいきます。

抜かず、自分の課題を意識して取り組んできました。2つ目は、試合や遠征を通して精神面を鍛えてきたことです。特に高知遠征では、全国トップの福大大と試合をする中で、自分の未熟さと同時に通用する部分も知ることができました。この経験から、一本への執念や試合中の集中力の大切さを学びました。



放課後の情熱～部活動コラム～

放課後の校舎に響くかけ声や、楽器の音色。そこには、一つの目標に向かって自分を磨き続ける生徒たちの姿があります。本コラムでは、各部活動の練習風景や、部員たちが抱く熱い思いをリアルにお届けします。

野球部 春に向けて



普通科総合コース
21HR 青木 豊将
(藤枝明誠中出身)

私たち野球部は、9月に行われた秋季県大会で初戦敗退という本場に情けない結果に終わりました。そして、その原因は私たちのメンタルの弱さ、練習量の不足



また、このチームには自分で考えて動く力が弱いと感じています。ただ、この課題を一つひとつ克服していきなればいけません。この冬でついでにメニューを乗り越えて、メンタルと練習量、「考動力」を身に付け、春の大会でシードを取り、夏に繋げられるように日々練習していきます。

